

第46回定期中央委員会 山口中央執行委員長あいさつ (要旨)

新生JR東労組運動宣言のもと、新たなたたかいのスタートを切ろう!

苦難の道を切り拓いていこう

JR総連榎本委員長はじめJR総連の皆さん、本部OB会のみなさん、貴重な時間を割いていただきJR東労組の中央委員会にお越しいただきましたが、水戸・東京・八王子地本の委員の欠席、傍聴者の欠席が出ています。欠席というよりもポイントです。これがJR東労組の現状です。私たちはこの現実から出発し、苦難の道を切り拓いていかなければなりません。

冒頭、組織分裂の動きについて触れます。この動きは、組合員が兆候をつかみ、職場の組合員が全体像を明らかにしてくれました。水戸・東京・八王子地本の職場では、組合員が突然「新組合に加入するか」「JR東労組に残るか」「組合には加入しないのか」という三択を突きつけられ、現在では指導部が「新組合に加入するか」「JR東労組を脱退するか」の二択を迫っているように見えます。指導部が分裂策動を行っておきながら組合員自身に最終的な判断を委ねる無責任さ、そして二択を迫る強要行為です。

バス関東の職場でも分裂の動きが出ており、バス関東本部の役員自ら新労組の結成や加入を語るなど、ルール同様の組織破壊策動が報告されています。

水戸・東京・八王子地本の組合員、バス関東の組合員も本当に悩んでいるということです。共にJR東労組運動を担ってきた他地本の職場の仲間たちは、「俺たちと一緒にやろう」「離脱はあなただけにならない」と訴え続けてくれています。しかし「苦しい気持ちは続いているが、役員から糾弾されるのが怖くてこのままJR東労組に残ることはできない。仕方ないんだ」という悲壮感に満ちた声が返ってきています。

昨日、中央本部は臨時第11回中央執行委員会を開催し、水戸・東京・八王子の各地本執行部に対して今定期中央委員会に制裁申請を行うことを全会一致で決定しました。

そもそも18春闘の大敗北の総括もできず、大会決定を反故にして、責任を他人になすりつけ、揚げ足をとり、自らの誤りに矢印を向けることなく、組合員を感情的にあり組織化することは、2年にわたる組織再生のたたかいを足蹴にするものです。職場の仲間たちが水戸・東京・八王子地本の組合員から掴んだ声は、

「職場では愚痴も漏らせない」「いつしか陰口を言われるようになり、一部役員から仕事面で足を引っ張られることもしばしばあった」「仲間内では空白の2年と言ってきた。何も運動はなかった。あったのは本部批判だけ」「職場で聞いている話と全く違う」などです。

組合員を不安に追い込み、分裂行為に対して何もコメントしない、執行部としての任務放棄をするなどという地本指導部は、分裂行為に荷担するということに留まらず、分裂行為を主導するものであり、組織破壊者です。断じて許すわけにはいきません。後ほどしっかりと議論していただくことを要請します。

組織破壊者・分裂策動を許さず、今委員会を組織再生のスタートへ

私たちは組織破壊者を許さず、断固としてたたかいます。それは単に感情や怒りで糾弾するということではありません。

大事なことが三つあります。一つには、職場で不安を抱えている組合員に安心できる将来を指し示すこと、二つ目には、組織破壊者の運動を規定していた「嘘、偽り、すり替え」の質と決別し、真実を組合員に訴え続けること、三つ目には、自己保身や官僚化と決別し、職場の組合員と同じ目標を持つことです。

つまり、組織破壊者がやらなかったこと、できなかったことを明確にし、乗り越えるための実践をすることです。特に、自己保身や官僚化は無自覚に忍び寄ってくるものです。組合員の率直な指摘をただただ受けなければ自覚できないことだと思います。中央本部はこのような決意に基づき、今委員会を新たな組織再生のスタートとしていきます。

1月30日、東京地本において「私たちはJR東労組からの脱退・分裂組合の立ち上げに反対します」「私たちは組合員のための新生JR東労組東京地本をつくりたい」というスローガンを掲げて「JR東労組東京地本を守る会」が立ち上がりました。さらに2月1日には「18春闘を止し総括し、組合員不在の運動と分裂破壊策動は許さない!」と姿勢を明らかにし、「組合員のためのJR東労組を守る八王子の会」が立ち上がりました。今日、この場にも「JR東労組東京地本を守る会」のみなさん、「組合員の

ためのJR東労組を守る八王子の会」のみなさんが傍聴に駆けつけて来ています。みなさんの連帯の拍手をお願いいたします。

私たち中央本部は厳しい組織現実の中、立ち上がった仲間たちに敬意を表するとともに、水戸地本、東京地本、八王子地本の再生のために一致協力していきます。JR東労組全組合員に支援をお願いします。

「新生JR東労組運動宣言」を発する!

2018年4月12日に開催した第35回臨時大会で、中央本部は「職場の声を尊重し、全組合員が納得と共感を持つ運動づくりで新たなJR東労組を創り上げよう!」とスローガンを掲げました。以降2年間、組織拡大・強化をめざし苦難の道を歩んできました。12地本の総団結を掲げながらも、残念ながら大会や委員会の決定事項すら守られず、収束できない組織問題は組合員に新たな不安や不信を招き離脱へと導いています。

今日ここに、JR東労組運動の旗を守ろうという真の仲間が結集していることから、「新生JR東労組運動宣言」を発したいと思えます。具体的には議事の中で皆さんに提起しますが、私のあいさつでもその趣旨を述べさせていただきます。(3面を参照ください)

この2年間、職場で奮闘する仲間たちは、総団結と言いつつも遅々として事態が進まないことに苛立ちがあったかもしれせん。これからはお互いが本音で意見を出し合い、相手を認め合いながら進むべき道を切り拓いていくことができると感じています。奢りや自己保身と決別し、仲間のため、組合員のためにたたかう本物のJR東労組を私たちの手で取り戻そうではありませんか!

20春闘を全組合員でたたかい抜こう!

最後に20春闘についてです。新生JR東労組運動として最初の大きな取り組みとなります。

結論から申し上げます。組合員の賃金の底上げを図るために、JR総連方針に則り、定昇を含み6,000円の要求を掲げていきたいと考えています。

今年台風災害により会社の通期業績見直しも下方修正しまし



た。しかし災害復旧と輸送の確保は、圧倒的に我が組合員の奮闘によるところが多いのは周知の事実です。ですから厳しい議論にならざるを得ませんが、しっかりと満額を勝ち取るために交渉に臨みたいと思えます。

賃上げの3要素は、「世間相場」「会社の支払い能力」「組織力」です。経営側は月例賃金の引き上げにはかなりこだわりのではなく、諸手当、一時金、労働環境の改善などを総合して待遇改善を行うという意思を明確にしています。さらに経営側の統一闘争に対する否定感とトヨタ労組に見られるように、労働組合の側から評価に基づいた賃上げ方式を強める要求を行うなど、統一闘争を保つことが厳しい現実も生み出されています。

私たちは組織破壊を受け、組織数が減少している中でたたかいていきますが、正当な要求を掲げ、組合員にわかりやすい議論をつくることで、20春闘を通じた組織拡大・強化を実現するためにたたかいたい抜く決意です。

この2年間の苦闘、職場を基礎にたたかいたゆえの教訓、そして未来を切り拓くための積極的な提言を委員の皆さんからいただいたと思います。「新生JR東労組運動」を組織内外に宣言し、新たなたたかいをスタートさせるバネをつくる委員会としていきます。委員・傍聴・来賓の皆さん、そして職場で汗を流して奮闘するすべての仲間の力を結集し、委員会の圧倒的成功を勝ち取るうえではありませんか!